

## テーブルの端をいかに歩かせるか？

1月25日、平成27年秋の叙勲において瑞宝双光章を受章されました南大島の 白井 高 様が受章の報告で役場に見えられました。

白井様は文部省（現在の文部科学省）に勤務されました。本省勤務や金沢大学勤

務をされ、熊本大学勤務を最後に退官されましたが、国の教育文化の振興に貢献された事が認められ今回の栄に浴されました。



南大島の 白井 高 様

退官後、奥様の故郷の明和町に移り住んで来られました。白井様がおっしゃるには明和町の皆様（周囲の皆様）の人柄のすばらしさ、住みやすさに感謝しておりますとのことでした。そして、役場職員にも大変お世話になっておりますとの御礼の言葉もいただきました。私（町長）としますと、中には気が利かないのも

居まして大変失礼をしている事が多々あるのかなと思いますが、どうかご容赦を！と正直に申し上げました所、白井様は「それは町民性もありますから、みんなゆったりとしていますね。でもね、テーブルの端をいかに歩かせるかですよ。公務員は前例がない、予算がないと言って新しいことには手を出しません。いかに楽で安全な落ちる心配のないテーブルの真ん中に居る事ばかりを考えます。ですが町民・住民のためには法律・条例を拡大解釈して自己の責任で最大限のサービスを引き出せるようにする職員こそが求められる公務員です。前例は自分で作るもの、予算は交

渉して獲得するものです。町民のために己の体を張れる職員、町長はそんなテーブルの端を歩く事が出来る公務員を作ることが仕事です。頼みますよ。」とおっしゃいました。

私は白井様の事の神髄を見極めたアドバイスに恐れ入りました。テーブルの端を歩かせろ！は私自身も自らテーブルの端をいかに歩くかです。落ちる心配があるから真剣に住民のためにバランス感覚で最大限の努力をしながら歩いて行きます。白井様の言葉に目が覚めたような、すがすがしい気持ちがこみ上げて来ました。白井様、大先輩としての金言に感謝申し上げます。ありがとうございました。そして、今回の受章誠におめでとうございました。今後益々のご活躍とご健勝をご祈念申し上げます。

白 井 高 様

金 言 「テーブルの端をいかに歩かせるか」

平成27年12月1日

明和町長 富塚もとすけ